

第3次静岡市食育推進計画における 重点事業実施計画個票

目次

- 1.2 ページ 公立こども園における食育推進事業（こども園課）
- 3.4 ページ しずおかカラダにeat75（健康づくり推進課）
- 5.6 ページ 食に関する指導（学校給食課）
- 7.8 ページ 食に関する情報発信（学校給食課）
- 9.10 ページ 栄養素について学ぶ（静岡市私立幼稚園連合会）
- 11.12 ページ 元気で長生き栄養講座（各区健康支援課）
- 13.14 ページ 食生活サポート講座（各区健康支援課）
- 15.16 ページ 生活習慣病予防教室（静岡市食生活改善推進協議会）
- 17.18 ページ 食の安全教室（食品衛生課）
- 19.20 ページ 歯周病検診（健康づくり推進課）
- 21.22 ページ 楽しく子育て応援教室（静岡市食生活改善推進協議会）
- 23.24 ページ 食品ロス削減対策事業（ごみ減量推進課）
- 25.26 ページ 地場産物を取り入れた献立の提供（学校給食課）
- 27.28 ページ しらすを食べる会（清水漁業協同組合）
- 29.30 ページ 地産地消活動（清水農業協同組合）
- 31.32 ページ 生野菜言倶楽部（静岡市農業協同組合）
- 33.34 ページ 食育応援団（健康づくり推進課）
- 35.36 ページ お茶の美味しい入れ方教室（農業政策課）

第3次静岡市食育推進計画における重点事業一覧

◎目標数値を達成する上で最も影響のある事業

No.	目標数値	事業名	担当課・団体
1	(1) 食育の関心 (若い世代)	公立こども園における食育推進事業	こども園課
2	(2) 朝食欠食 (20~30歳代)	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
3		食に関する指導	学校給食課
4	(3) 情報を得る (若い世代)	食に関する情報発信	学校給食課
再掲	(4) 女性のやせ	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
再掲		食に関する指導	学校給食課
5	(5) 若い世代の栄養バランス	栄養素について学ぶ	私立幼稚園連合会
6	(6) 市民の栄養バランス	元気で長生き栄養講座	各区役所健康支援課
7	(7) 生活習慣病予防改善	食生活サポート講座	各区役所健康支援課
8		生活習慣病予防教室	静岡市食生活改善推進協議会
9	(8) 食品の安全性	食の安全教室	食品衛生課
再掲	(9) 食べ方への関心	食に関する指導	学校給食課
10	(10) 歯科健診の受診	歯周病検診	健康づくり推進課
11	(11) 共食	楽しく子育て応援教室	静岡市食生活改善推進協議会
12	(12) 食品ロス削減	食品ロス削減対策事業	ごみ減量推進課
13	(13) 地産地消	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
14		しらすを食べる会	清水漁業協同組合
15		地産地消活動	清水農業協同組合
16	(14) 農林漁業体験	生消費言倶楽部	静岡市農業協同組合
17	(15) 伝統料理の継承	食育応援団	健康づくり推進課
再掲		地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
18	(16) 茶葉から入れた緑茶を飲む	お茶の美味しい入れ方教室	農業政策課

 …食育関係団体

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	公立こども園における食育推進事業
担当課・団体	こども園課
基本方針	若い世代を中心とした食育の推進
基本施策	(1)食育の啓発
数値目標	(1)食育に関心を持つ若い世代の割合を85%以上にする
取組概要	体験や給食を通し、食習慣の体得の啓発を実施。また、食育だよりやレシピを配付することで保護者への情報提供を行う
取組目的	人として、生涯にわたり、健全な生活を営むための「食」を実践する際、基礎となる食体験の積み重ねをすることができる環境をつくること
現状・課題	(現状) 各こども園で、給食に地場産物を取り入れ提供したり、子どもが食育体験を通し食への興味関心は高まっている (課題) 子どもの咀嚼力が弱いことが気になることから、咀嚼力の高める取り組みが必要

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	(学習目標)「かむ力」についての知識や意識が園児、保護者とも向上している状態 (行動目標)よく噛んで食べる子どもの割合、よく噛んで食べる食事の工夫、声かけをする保護者の割合の増加 (環境目標)かむことを意識した献立を月1回以上実施および栄養士配置園を中心にかむことに重点をおいた食育を実施。掲示物、おたより等をおして保護者への情報提供を実施。 (結果目標)以前と比べてよく噛んで食べるようになった子の割合の増加
	令和5年度結果目標	食育事業を現状のまま続けていたい
令和5年度取組方針		「かむ力」に特化した食育活動やおたよりの配付等実施し、園児、保護者へのはたらきかけを行う。
取組内容(予定)		毎月30日にかむことを意識した献立を園で提供。「かむ力」に特化した食育を栄養士配置園を中心に実施し、全園におたよりを配布する。保護者あて事前事後アンケートで行動変容を評価する。

評価	令和5年度評価	企画評価	「かむ力」をテーマに食育活動を実施し、園児や保護者に噛むことへの情報提供ができた。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画どおりに実施できた。
			②参加者は内容を理解し満足したか	毎月30日にかむことを意識した献立の提供やおたよりの配付、園児への体験型の食育(実際にするめ等をかむ)を取り入れるなどして、かむことへの理解を深め、満足できた。
			③課題や改善点	「かむ力」の食育活動で情報提供をしてきたが、保護者の子どもへの声かけ等の行動変容には十分な結果が得られなかった。
		影響評価	学習目標が達成されたか	かむことへの効果を知っている保護者の割合がやや増加した。(食育活動実施後アンケートより)
			行動目標が達成されたか	よくかんで食べる子どもの割合がやや増加した。(食育活動実施後アンケートより)
環境目標が達成されたか	かむことを意識した献立を月1回以上実施、かむことについてのおたよりの配付、栄養士配置園を中心に15園で体験型食育を実施するなどして食に関する情報提供をすることができた。			
令和5年度結果評価		園児や保護者へ「かむ力」についての食育活動を実施し、よくかんで食べる子どもの割合がやや増加した。また、保護者の意識向上につなげることができたが、行動変容で十分な変化が得られなかったことが課題となった。		
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 ・食育研究協議会で食育を普及させるための食育冊子を作成し、全こども園に配付することができた。 ・各園で食育年間計画に沿って食育を実施することができた。 ・子どもの食の課題に対して食育活動(かみかみ献立提供、おたより配付、食育訪問)を実施し、園児や保護者に食に関する情報提供をすることができた。		

投入コスト	予算額	—	千円	決算額	—	千円				
対象者(●は該当、◎は保護者)	0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
	●			◎	◎	◎	◎	◎	◎	

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針		継続						
年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
工 程	計画	食育研究協議会	◎実施	継続 ⇒ 完了	—	—	—	—
	実績	食育研究協議会	◎	◎	—	—	—	—
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
①	食育研究協議会回数	6回	4回	—	—	—	—	
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	しずおかカラダにeat75
担当課・団体	健康づくり推進課
基本方針	若い世代を中心とした食育の推進
基本施策	(2)規則正しい食習慣の実践
数値目標	(2)朝食を欠食する若い世代の割合を20歳代で35%以下、30歳代で25%以下にする (4)女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合を20%以下にする (5)主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合を55%以上にする
取組概要	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを通して、まちぐるみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する
取組目的	・若い世代から食や健康に対する意識を向上させ、「健康長寿のまちづくり」の実現する ・官民連携により、より効果的な食育の推進を図る
現状・課題	(現状) 平成29年度より若い世代が主体的に実施する事業を民間企業、大学等との連携を図り事業をスタートした。 (課題) 平成28年度に実施したアンケートで、若い世代は朝食欠食をはじめとする食習慣の乱れや野菜不足による栄養バランスの偏りがみられ、実践面でも行動変容に繋がっていない。 効果的な事業を実施するため、若い世代の意見を取り入れた事業の展開や無関心層への介入が求められる。

令和5年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)

目標	令和5年度目標	(学習目標)若い世代(事業参加者)が、自身の健康のために栄養バランスのとれた食事が大切であると意識ができた割合(100%) (行動目標)若い世代(事業参加者)が、自身で食事を用意しようとする意欲をもつ割合(90%) (環境目標)食に関する情報を自分の健康のために自身で収集し、さらに活用することができるように、市のHPやTwitter等で情報発信をする (結果目標)食生活の大切さについて家族と話をしたり、栄養バランスのよい食事について知ることができた若い世代(事業参加者)の割合(100%)
	令和5年度結果目標	事業に関わる20歳代の朝食欠食率を35%以下にする。
令和5年度の取組方針		食事の大切さを若い世代が同世代に向けて発信できるように、教室開催や情報発信をしていく
取組内容(予定)		高校生等を対象に、民間事業者と連携し、食生活の大切さについて学ぶ教室を開催する

評価	令和5年度評価	企画評価	計画通りに事業を実施し、若い世代の食習慣等への意識改善の機会となった。 今後は高校生だけではなく、大学生等や新社会人等を対象とした事業開催を検討。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	・高校生を対象とした食育教室を2回実施した。 ・食育啓発用まんが「知って得する食事のアレコレ」を増刷、「一人暮らしのどうする?ごはん!」も増刷し、約7,000冊を高校生へ配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。
			②参加者は内容を理解し満足したか	食育教室の受講後アンケートにて「教室の総合的な満足度」として95%が満足したと回答。野菜がたっぷり入ったサンドイッチ作りが楽しかったので、苦手な野菜を食べられるようになりたいという意欲的な感想もあった。
	③課題や改善点		食育啓発用まんがへの協力等により、2年連続、同じ高校での開催を依頼したが、今後は高校生だけではなく、大学生等を対象とした食育イベントなどを開催していくことを検討。	
	影響評価	学習目標が達成されたか	食育教室の受講後アンケートにて「今日学んだことは自分のためになると感じた」と95%が回答した。	
		行動目標が達成されたか	食育教室の受講後アンケートにて「今日学んだレシピを今後も自分での作ってみたい」と73%が回答した。	
		環境目標が達成されたか	食育教室の報告はHPにも掲載した。	
結果評価		食育教室の受講後アンケートにて「教室をきっかけに食への興味が高まった」と95%が回答し、若い世代の食育への関心につなげることができた。		
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 令和4年度に実施した「健康・食育に関する意識・生活アンケート調査」において20歳代の朝食欠食率は29.9%であり、市全体としても目標は達成した。		

投入コスト	予算額	536千円	決算額	490千円						
対象者(●は該当、○は保護者)	0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
	○	○	●	●						

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針		充実						
工程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	ワークショップ・出張型食育教室の実施など	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	ワークショップ・出張型食育教室の実施など	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
①	大学生によるワークショップの開催	2回以上	2回以上	2回以上	—	—	—	
②	大学に向き出張型食育教室の開催	1回以上	1回以上	1回以上	—	—	—	
③	民間業者等と連携した食育教室の開催				1回	2回	2回	
④	簡単朝食レシピリーフレットの作成・配布					12,000冊作成・配布	—	
⑤	食育啓発用まんがの作成・配布				10,000冊作成・配布	10,000冊作成・配布	増刷・配布	

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食に関する指導
担当課・団体	学校給食課
基本方針	健康長寿世界—につながる食育の推進
基本施策	(4)栄養バランスを考えた食生活の実践
数値目標	(2)朝食を欠食する若い世代の割合を20歳代で35%以下、30歳代で25%以下にする (4)女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合を20%以下にする (9)ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合を45%以上にする
取組概要	各小中学校で、食に関する指導を実施する
取組目的	児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくようにする
現状・課題	(現状) 栄養教諭(栄養士)と担任のチームティーチングによる食に関する指導を実施するように計画している。また、各学校において「食に関する指導の全体計画」を作成し、計画に基づいた取り組みを進めている。 (課題) 特に中学校において、授業時間の確保ができず放送資料のみとなっている学校がある。

令和5年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)

目標	令和5年度目標	(学習目標)食に関する指導の成果が表れていると思う学校の割合95% (行動目標)児童生徒が食べ物や作ってくれている人への感謝の気持ちを表していると思う学校の割合60% (環境目標)栄養教諭・栄養士を活用した食に関する指導を各学年1回以上実施 (結果目標) ・好き嫌いなく食べようとしている児童生徒の割合60%以上 ・食に関する指導の成果として「好き嫌いなく食べようとしている」学校の割合54%
	令和5年度結果目標	給食を残さず食べようとしている児童生徒の割合 63%以上

令和5年度取組方針 栄養教諭等によるTT授業の充実を図る。

取組内容(予定) 各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況を合わせて柔軟に対応する。

評価	令和5年度評価	企画評価	予定通り事業を実施し、学校での食育推進に繋げることが出来た。予定表・報告書で取組と成果は確認できるが、内容についても各学校に紹介する方法を検討したい。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	小中学校126校中118校で各学年1回以上実施することができ、各学校から成果の報告があった。
			②参加者は内容を理解し満足したか	・栄養バランスの大切さや給食の重要性を学び、嫌いな物も挑戦して食べようとする姿勢や運動に取り組む姿が見られた。 ・健康な体を作るために健康的な食事をとることが大切であり、栄養素の動きを見直すきっかけになった。
	③課題や改善点		新型コロナウイルスの影響により、年度当初の計画通りに実施できない部分もあったので、授業形式や内容については臨機応変な対応をお願いした。	
	影響評価	学習目標が達成されたか	児童生徒への「食に関する指導」の成果が感じられると評価する学校の割合97%	
		行動目標が達成されたか	食べ物を作ってくれる人への感謝の気持ちを表していると思う学校の割合56%	
		環境目標が達成されたか	栄養教諭・栄養士を活用した食に関する指導各学年1回以上実施した学校の割合93.7%	
結果評価	・好き嫌いなく食べようとしている児童生徒の割合60% ・食に関する指導の成果として「好き嫌いなく食べようとしている」学校の割合54%			
令和5年度結果評価	【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 給食を残さず食べようとしている児童生徒の割合 63%			

投入コスト

予算額 一 千円 決算額 一 千円

対象者(●は該当、○は保護者)

0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
	●	●							

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針		充実					継続	
年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
工程	計画	栄養教諭・栄養士によるTT授業	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	栄養教諭・栄養士によるTT授業	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
①	栄養教諭・栄養士によるTT授業	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	
②	全体計画の見直し	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食に関する情報発信
担当課・団体	学校給食課
基本方針	若い世代を中心とした食育の推進
基本施策	(3)情報提供による環境整備
数値目標	(3)情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする
取組概要	毎月配付している献立表やホームページを活用して、市内公立小中学校の児童生徒や保護者に食育を広く周知
取組目的	子どものときから食や健康に対する意識を向上させ、「健康長寿のまちづくり」を実現する
現状・課題	<p>(現状) H29保護者アンケートより97%が献立表を見ていること、79%が市教委発行の便りを見ていることが確認できた。H29食育推進状況調査より、食育推進のために献立表やHPの情報発信が役立っていると回答した学校は78%だった。</p> <p>(課題) 関心の薄い人にも見てもらえるような情報発信をする必要がある。</p>

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	<p>(学習目標) 食育が大切だと思う保護者の割合90%</p> <p>(行動目標) 献立表を見ている保護者の割合90%、給食だより60%、HP 10%</p> <p>(環境目標) 献立表に乗せるべき情報について検討を行い、全学校給食施設で共通理解を図る</p> <p>(結果目標) 献立表やお便り、HPなどの情報が役立ったと思う学校の75%</p>
	令和5年度結果目標	献立表やお便り、HPなどの情報が役立ったと思う学校の割合 75%

令和5年度の取組方針	献立年間計画・献立作成テーマに合わせて情報発信する
取組内容（予定）	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食献立表による情報発信 給食だよりによる情報発信 学校給食専用ホームページを活用した情報発信

評価	令和5年度評価	企画評価	献立表や各種だよりを配付し、ホームページにも掲載した。また、学校給食専用ウェブサイト立ち上げ、給食使用材料の生産に関わる人達や、学校給食センターの情報等を掲載し情報発信した。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	使用材料の紹介を通じて生産者の取組や地産地消の取組について発信することができた。
			②参加者は内容を理解し満足したか	<ul style="list-style-type: none"> 学校掲示用の給食だよりはふりがなをふり、低学年でも理解できる内容にした。 資料や放送により、食材のよさについて知ることができた児童生徒の割合45%。
	③課題や改善点		学校給食の情報についてホームページを活用している保護者の割合が8%と低いことから、学校給食専用ホームページを開設し、情報を得やすい環境整備に取組んだ。	
	影響評価	学習目標が達成されたか	食育が大切だと思う保護者の割合99%	
		行動目標が達成されたか	献立表を見ている保護者の割合94%	
		環境目標が達成されたか	献立表に載せるべき情報について研修会を通じて全施設共通の情報発信を実施している。	
結果評価	献立表や給食だより、ホームページなどの情報が役立ったと思う学校の割合75%			
令和5年度結果評価	<p>【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】</p> <p>献立表やお便り、HPなどの情報が役立ったと思う学校の割合 82%</p>			

投入コスト	予算額	4,191 千円	決算額	4,180 千円						
対象者（●は該当、◎は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
		●◎	●◎							

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	献立テーマやわくわく給食に合わせた情報発信	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	献立テーマやわくわく給食に合わせた情報発信	◎	◎	○	○	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標/年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	献立年間計画、献立作成テーマに合わせて、情報発信をする。		毎月1回以上	毎月1回以上	毎月1回以上	毎月1回以上	毎月1回以上	毎月1回以上
②	わくわく給食の実施に合わせて啓発資料を作成し、各学校に配付する。			年6回	年6回	年6回	年6回	年5回
③								
④								

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	栄養素について学ぶ（3つの食品群について知ろう）	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	栄養素について学ぶ（3つの食品群について知ろう）実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	給食だよりの赤・緑・黄の色塗り		最初は教師に教えてもらい、何回か経験した後、自分で考えて塗っていく。					
②	給食材料の色分け		当日の給食の材料を、当初は教師が色分けをして伝えるが、クイズ形式で問いかけたり、給食当番が考えて伝えていく。					
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	元気で長生き栄養講座
担当課・団体	各区役所健康支援課
基本方針	健康長寿世界一につながる食育の推進
基本施策	(4)栄養バランスを考えた食生活の実践
数値目標	(6)主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合70%以上にする
取組概要	介護予防についての講話、調理実習、試食
取組目的	健全な食生活の実践 ライフステージにあった食事スタイルの確保
現状・課題	(現状) 食事バランスを見直すきっかけとなり、また参加者同士の交流の場ともなり、利用者の満足度が高い。 (課題) 会場により参加者にばらつきがあり、またリピーターが多く新規参加者が少ない傾向にある。

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	(学習目標)参加者アンケートより、バランスの取れた食事について理解できたと回答する参加者の割合60%以上。 (行動目標)参加者アンケートより、「今後の生活にバランスのとれた食事を毎食食べることを取り入れたい」と回答する参加者の割合75%以上。 (環境目標)参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っている。 (結果目標)参加者アンケートより、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合70%以上。
	令和5年度結果目標	・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合70%以上 ・各イベント等でチラシ配布などのPR ・交流館・交流センター等との連携
令和5年度の取組方針		加工品等を活用した簡単な調理実習、試食を再開し、参加者の調理意欲を高める。
取組内容（予定）		栄養バランスや低栄養予防に関する講話と、加工品等を使った簡単な調理実習、試食の実施。

評価	令和5年度評価	企画評価		講話に加えて簡単な調理実習や試食を実施したことで、栄養バランスや低栄養予防について、より理解を深めることができた。
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画通りに実施できた。（年16回）
			②参加者は内容を理解し満足したか	参加者アンケートより、教室の理解度は98%、満足度は99%と高かった。
			③課題や改善点	今後も感染症や食中毒予防に配慮しながら実習や試食を取り入れた講座を実施していく。一方で、コロナ禍以前と比較すると参加者数が少ないため、PR活動に力を入れていく。
		影響評価	学習目標が達成されたか	参加者アンケートより、バランスのとれた食事について理解できたと回答する参加者の割合は85%で、目標の60%を上回った。
			行動目標が達成されたか	参加者アンケートより、「今後の生活にバランスのとれた食事を毎食食べることを取り入れたい」と回答する参加者の割合は85%で、目標の75%を上回った。
環境目標が達成されたか	生涯学習交流館との共催でも実施できた（内6回）。またチラシの配布など地域活動におけるPR活動も行った。			
結果評価		参加者アンケートより、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合は86%で、目標の70%を上回った。		
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 参加者アンケートより、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている参加者の割合は86%で、目標の70%を上回った。また、各イベントなどでチラシを配布する等のPR活動や交流館・交流センターとの連携により参加者確保につなげられた。		

投入コスト	予算額	103千円		決算額	90千円					
対象者（●は該当、○は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
								● (65歳以上)	●	

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針		継続						
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	講座の開催	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	講座の開催	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5	
①	講座の開催	年18回開催	年20回開催	年15回開催	年15回開催	年15回開催	年15回開催	
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食生活サポート講座
担当課・団体	各区役所健康支援課
基本方針	健康長寿世界一につながる食育の推進
基本施策	(5)生活習慣病予防と改善
数値目標	(7)生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合を65%以上にする
取組概要	生活習慣病予防についての講話、調理実習、試食
取組目的	講話や調理実習を通して適切な食事量を知り、生活習慣病の予防と改善を行う。
現状・課題	<p>(現状) テーマ別または特化型にすることで、参加者自身も具体的に実践方法を理解しやすい。調理実習を通して、調理のポイントや自身に合った食事量の確認ができています。</p> <p>(課題) 参加者の常連化や参加者が少ないことがある。</p>

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	<p>(学習目標) 参加者アンケートより、自分にあった食事の量が理解できたと回答する参加者の割合60%以上。 (行動目標) 参加者アンケートより、今後の食生活の中で適切な食事量を摂取していくと回答する参加者の割合60%以上。 (環境目標) 参加者数を増やすため、生涯学習施設との共催や地域活動におけるPR活動等を行っていく。 (結果目標) 参加者アンケートより、普段の食事で栄養バランスに気を付けている参加者の割合65%以上。</p>
	令和5年度結果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の食事で栄養バランスに気を付けている参加者の割合65%以上 ・ヘルスアップ食事相談や各種イベント等でチラシ配布などのPR ・年間計画通りの実施
令和5年度の取組方針		感染対策をしつつ参加者による調理体験や試食を再開し、望ましい食生活についての理解を深める。
取組内容（予定）		自分に合った食事量や調理のポイントに関する講話と、調理体験、試食を実施

評価	令和5年度評価	企画評価	講話に加えて調理体験や試食を実施したことで、望ましい食生活についてや調理のポイントについて、より理解を深めることができた。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画通りに実施できた。(年17回実施)
			②参加者は内容を理解し満足したか	参加者アンケートより、教室の理解度は96%、満足度は99%と高かった。
			③課題や改善点	今後も感染症や食中毒予防に配慮しながら調理体験や試食を取り入れた講座を実施していく。一方で、コロナ禍以前と比較すると参加者数が少ないため、PR活動に力を入れていく。
		影響評価	学習目標が達成されたか	参加者アンケートより、自分にあった食事の量が理解できたと回答する参加者の割合は70%で、目標値の60%を上回った。
			行動目標が達成されたか	参加者アンケートより、今後の食生活の中で適切な食事量を摂取していくと回答する参加者の割合は68%で、目標値の60%を上回った。
環境目標が達成されたか	生涯学習交流館との共催でも実施できた(内4回)。またチラシの配布など地域活動におけるPR活動も行った。			
結果評価		参加者アンケートより、普段の食事で栄養バランスに気を付けている参加者の割合は76%で、目標値の65%を上回った。		
令和5年度結果評価		<p>【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 参加者アンケートより、普段の食事で栄養バランスに気を付けている参加者の割合は76%で、目標値の65%を上回り、計画通りに実施できた。また、各種イベントなどでチラシを配布する等のPR活動により参加者確保につなげられた。</p>		

投入コスト	予算額	84千円	決算額	93千円						
対象者（●は該当、○は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
						●	●	●	●	(75歳未満)

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	教室の実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	教室の実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	講座の開催		年17回 実施	年17回 実施	年12回実施	年12回実施	年15回実施	年17回実施予定
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	生活習慣病予防教室
担当課・団体	静岡市食生活改善推進協議会
基本方針	健康長寿世界一につながる食育の推進
基本施策	(5)生活習慣病予防と改善
数値目標	(7)生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続している市民の割合を65%以上にする
取組概要	減塩料理教室の開催や低栄養予防、ロコモ活動を実施し、家庭で実践できるように知識等をつたえる
取組目的	家庭での実践に繋げる
現状・課題	(現状) 参加者が少ない (課題) 募集のための広報の仕方を考える

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	(学習目標) 減塩の重要性について知る参加者を増やす。 (行動目標) 自身の食生活において減塩に必要性に気付き、継続的に実践する参加者を増やす。 (環境目標) 食生活改善推進協議会主催の各々の教室について知り、自ら選択して参加できるように周知方法を工夫する。 (結果目標) 食推の全9地区において年2回以上実施する。
	令和5年度結果目標	令和元年度の目標の継続をし、100%達成を目指す
令和5年度取組方針		調理実習、試食を中心に教室を開催していく。
取組内容（予定）		18回

評価	令和5年度評価	企画評価	計画を超えて開催することができた。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	依頼が多かったため、28回開催することができた。
			②参加者は内容を理解し満足したか	参加者より「自宅でも実践したい」「また参加したい」との感想をいただき、満足度が高かった。
			③課題や改善点	生活習慣病予防教室は、骨と体に良い料理教室、減塩料理教室、低栄養予防料理教室等の開催数としていたが、骨と体に良い料理教室は次年度では別の事業として進行管理していく。
		影響評価	学習目標が達成されたか	だしなどを利用したレシピにより、自身の食生活への減塩の必要性に気づき、行動してみようとする機会となった。
			行動目標が達成されたか	家庭にあるもの（調理器具・食材等）を中心にレシピを作成するため、自宅ですぐに作るができると好評であった。
			環境目標が達成されたか	地域での集まりに出向き、食の大切さについてPRを行い、食と運動をバランスよく改善することの重要性を伝えることができた。
結果評価	参加者の満足度が高く、大変好評であった。			
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 教室参加者の満足度が高く、リピーターが多い。よって、計画を超える開催となっているため、目標を達成できた。		

投入コスト	予算額		— 千円		決算額		— 千円			
対象者（●は該当、○は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
				●	●	●	●	●	●	

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	減塩料理教室、高齢者の健康食生活	◎実施	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	9地区で各々1回の減塩料理教室		◎8回	◎8回	⇒9回	⇒8回	⇒9回	⇒18回
②	9地区で高齢者の健康と食生活・口コミ		◎8回	◎8回	◎12回	⇒継続	⇒継続	⇒継続
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食の安全教室
担当課・団体	食品衛生課
基本方針	健康長寿世界—につながる食育の推進
基本施策	(6)食品の安心・安全に関する知識の習得
数値目標	(8)食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合を70%以上にする
取組概要	小学校等において、食中毒、添加物等に関する安全教室を実施する
取組目的	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や食生活について正しい意識を育て、知識を習得する ・食中毒や食品添加物等について科学的な考え方に基づいた知識を学ぶ機会を設ける
現状・課題	<p>(現状) 毎年一定数の希望があり、アンケート結果から高い満足度を得ている。H30までは、5プログラム(担当課：4課)から選択出来たが、担当課からの要望により、R1からは2プログラム(担当課：2課)からの選択となっている。</p> <p>(課題) 希望数によっては対応する課の負担になる。引き受ける課の負担が大きい。</p>

令和5年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)

目標	令和5年度目標	(学習目標)受講後アンケートにて、「よくわかった・わかった」と85%以上の生徒が回答する。 (行動目標)受講後アンケートにて、「家族に話してみたい」と55%以上の生徒が回答する。 (環境目標)食の安全教室をやむを得ない場合を除いて100%依頼に応じる。 (結果目標)受講後アンケートにて、「今日の話が普段の生活に役立ててみたい」と50%以上の生徒が回答する。									
	令和5年度結果目標	—									
令和5年度の取組方針		講座内容の更なる充実を検討する。									
取組内容(予定)		小学校等を対象に安全教室を実施する。									
評価	令和5年度評価	企画評価		受講した小学生等の食中毒、添加物等に関する知識を深めることができたため、事業は適切に計画できた。							
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	小学生等を対象に、学校側が受け入れ可とした全12回を実施できた。							
			②参加者は内容を理解し満足したか	受講後アンケートの結果、「よくわかった・わかった」生徒が100%、「家族に話してみたい」生徒が91.3%であった。							
	③課題や改善点		内容の充実、講師のスキルアップや資料の見直しを図る。								
	影響評価	学習目標が達成されたか	「よくわかった・わかった」生徒が100%と、目標の85%以上を大幅に上回ることができた。								
		行動目標が達成されたか	「家族に話してみたい」生徒が91.6%であり、目標の50%以上を大幅に上回ることができた。								
環境目標が達成されたか		食の安全教室を100%実施できた。									
結果評価		受講後アンケートの結果、「今日の話が普段の生活に役立ててみたい」生徒が96.8%と、目標を上回ることができた。									
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 —									
投入コスト		予算額		275千円		決算額		264千円			
対象者(●は該当、◎は保護者)		0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
			●	●							

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	安全教室の実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	安全教室の実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	安全教室の開催		38回	22回	依頼に100%応じる	依頼に応じる100%	依頼に応じる100%	依頼に応じる100%
②								
③								
④								